

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200467		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松富塚(櫻ユニット 3階)		
所在地	静岡県浜松市中央区富塚町628-1		
自己評価作成日	令和7年10月31日	評価結果市町村受理日	令和8年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2297200467-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2297200467-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

樹齢千年にもなる桜並木が川沿いに広がり、少し高台に位置している施設です。近くには老舗のスーパーや理髪店、病院(消化器系内科、呼吸器系内科、整形外科、総合病院)があり、地域連携を重要視しています。昨年自然災害時の一時避難場所として指定され、自治会の方との協力のもと緊急事態に備えています。毎年5月の浜松祭りにはお子様方による屋台の出発点としまして、ご利用者様からお菓子のプレゼントをしたり、地元の方によるウクレレやフラダンス、三線等の演奏会を鑑賞しています。一人暮らしの高齢者が多い地区に位置していますので、地元の方から施設への入居へのご要望も増えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最近、管理者が交替しましたが、以前は此処に勤務経験もある階下の小規模多機能事業所の管理者だった職員であり、エアマナージャーや事務員も長く携わっていることから、安心感が滲む事業所です。各種書面が丁寧に作成される中、生活向上機能訓練加算の取得を通じて病院から作業療法士を招き、個別に具体的な指導が入っていることから、利用者本人がより良く暮らすための課題と対策も確かです。また新しい管理者は、関心、感動、感謝(3K)、整理、整頓、清掃、清潔、しつけ(5S)を推奨しており、職員にも徐々に変化が現れていて、職員間に「ありがとう」と交わす声が増え、利用者に関わる時間も増えてきています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3つの介護理念を毎日の朝礼時に唱和したり、介護骨子を読み合わせて細かく内容の理解を深めて、行動指針となるように努めています。	理念を含む運営内容が分かり易くまとめられた、採用者向けのプレゼン資料(A4版、15枚)を備えています。また昨年からは特定技能実習生を3名受け入れており、管理者は紐解きながら説明をおこなうことで、理解を求めています	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の圏域会議や地域包括の方が主催する介護教室等に参加。又、地域で開催するお祭りにボランティアとして参加する中で交流を深めています。	自治会費を納めていて、回覧板には「とみつか通信」を挟み込んでもらえています。更に自治会の常会への出席も果たし、事業所の駐車場を一時避難場所にするという話もまとめていて、地域とは友和な関係が続いています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月回覧板に挟んで配布して下さる通信の作成、運営推進会議に参加される自治会長、民生委員の方に毎月の活動や認知症の方への支援方法を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではできるだけ、地域資源(薬局、自治会、病院、スーパー)の方々に活動内容を紹介したり、さまざまな提案や要望を施設運営に生かしています。	自治会長からはこの地域における独居の高齢者数が挙げられ、民生委員はボランティアの提案や紹介、地域包括支援センター職員からは営業先に係る助言があったりと、運営推進会議のメンバーに恵まれています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設の現状を特に運営推進会議を通じて報告しています。報告書の提出や必要に応じて訪問相談の機会をもうけています。又、地域で施設を検討している方の情報をいただいています。	地域包括支援センターは運営推進会議へ毎回足を運んでくださり、また主催する介護教室へ管理者がブース説明に出向いたところ、早速「話を～」と家族見学の申し入れがあった事もあり、日頃から有益な関係が築かれています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度の身体拘束、不適切ケアのチェックシートにより日々の行動を振り返りながら、職員一人一人理解に努めています。又、施錠に関しましては防犯上必要な部分ではありますが、ご入居者様の心理状態を理解した上で開錠もしています。	長年「不適切ケアのチェックシート」に取組み、更に四半期の委員会開催も追加となり、定期的な振り返りを仕組みの中に取り入れています。このような積み重ねもあって「これも虐待につながりやすいんだね」といった気づきが職員に生まれています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関連法について定例研修を行ったり、職員自らの行動の振り返りや虐待につながりかねない言動を見直す機会を設けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際にご入居者様の中で成年後見人をご利用されていますので、ご利用に到った経緯や実際にどんな事をサポートしているか学び、必要とされるご入居者様のご家族に紹介しています。日常生活支援事業も研修の中で理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は一つ一つの項目を丁寧に説明し、随所で疑問点を尋ねてご納得していただいた上でご契約いただいています。又、解約の相談を受けた時は提案できる事をお伝えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度のアンケートを実施していますが、良い評価をいただいた内容はさらにのびしていけるように、ご指摘やご要望に関しては早めに職員と話し合い、改善しています。	個別の「とみつか便り」、誰もがみれる「とみつか通信」が発行され、ブログによる発信もあります。法人が募っているアンケートには厳しい意見もあるものの、一つひとつ解決していくことで前進があり、その点では手ごたえを感じることが出来ています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が主になって話すよりもむしろ職員から意見を引き出すように努めています。特に会議の場ではできるだけ職員からの提案意見に耳を傾けるようにしています。	毎月の職員会議(全体会議、ユニット会議)とともに、両ユニットが一同に会する朝礼で管理者が意見を収受しています。ドーナツやお好み焼き等多様なメニューが目を惹く食事レクリエーションもこの場から生まれています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境をよくするために、職員と定期的に面談を重ねる中で、個々のライフスタイルや希望するワークバランスに沿えるように努めています。又、得意な分野を生かした活動の提供を通じて向上心が持てるように働きかけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のレベルを把握して、キャリアパスへの挑戦をすすめたり、本社や市が主催の研修への参加を提案しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域会議に参加する事で、同じような形態の施設の管理者と話ができる機会となっており、同じような問題点を抱えている事を改めて理解し、相互協力の礎となっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、収集したご入居者様の情報をもとに、安心して、その人らしく生活していただく為に出来る限り寄り添い話をするように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事に対して施設が何が出来るのかを明確にご家族にお伝えする中で少しでも不安を感じている部分の解消の糸口になるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では環境の変化への適応を優先し、安全面や他のご入居者様との関わりへのサポートをしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物干し等をお願いしたり、時にはお味噌汁等を職員とつくったりと今までの生活スタイルを維持していただけるように配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの情報もいただきながら、ご入居者様の今までの生活を実現、継続できるように支援方法を話し合い決定しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にお連れしたり、親しいご友人をご家族にも協力いただきながら、ご面会の機会をつくれるように努力しています。	法事に出席する人の礼服の着衣を手伝って送り出すなど、これまでの生活が続くよう支援する態勢にあります。また「慣れ親しんだ場所へ出向くこと」も気にかけていて、最近では佐鳴湖公園へと足を延ばしており、なるべく季節ごとを考えています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ作業を共同で行っていただいたり、共通の会話をしながら、ご入居者様同士の関係性が築きれるように職員が配慮、会話の橋渡しをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を実際に終了された方の訃報のお知らせをお聞きして葬儀に参列させていただいたり、他の施設に移られた方の様子を担当者から聞かせていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からご入居者様のご要望を把握したり、意志疎通が困難な方でも動作やしぐさから好みを読み取る努力をしています。	法人の用意したアセスメントシートを基盤に、センター方式の一部シートも加え、情報整理をおこなっています。入浴など1対1になる機会を大切にするとともに、管理者が推奨する3Kを活かして把握を進めています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご契約時にご家族にご入居者様の生活歴を記載していただき、その為の支援の方法を話し合っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看護、医療の地域資源の方々と情報交換協力体制をとりながら、常にご入居者様の状態観察に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状を把握しながらサービス担当者会議にて支援方法の見直しや新たな提案を出し合い、ケアプランの作成を行っています。	「現場に入りたい」との意向がある介護支援専門員(計画作成担当者兼務)は、職員とのやりとりからでた発語等現場で掴み、さらには「介護支援経過」の記録をモニタリング材として、実のある介護計画書につなげています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ヒヤリハットや食事、排泄の記録だけでなく、職員との会話の中でつかんだ情報、ご入居者様のにやりとした様子も交えて記録作成をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の施設の事例も参考にしながら、良い事は積極的に取り入れたりしながら、サービスの多様化や可能性を秘めた支援を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の地域資源を把握していく中で、施設にとってプラスに働くものを取り入れたり、協力要請をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者様やご家族の希望を踏まえて往診時には日頃の健康状態を細かく報告し、異常が見られる時は早期に主治医に相談して状態悪化の予防に努めています。	看護師3名を帯同する医師の訪問診療を月1回受けています。受診前に「往診リスト」と名付けた記録をFAX送信して、適切な診療となるよう図っています。皮膚科や眼科が周辺にあることもあって、専門医には職員が通院支援をおこなっています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師による健康管理を行い、職員から日常の様子を確認しながら、処置や助言を受け、必要に応じて主治医への指示もいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できる限り早期退院につなげられるように、入院中の処置や状態をお聞きしながら早期に退院ができるように対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の中で終末期の状態になりました時は、ご家族の思いを確認しながら、看取り介護の方針を決め、最後までご入居者様が穏やかに苦痛なく過ごせるように支援しています。	入・退院後に改めて受け入れて看取りをおこなう予定だった利用者がそのまま逝去となったケースはありますが、ここ一年は実績はありません。看取りに取組む姿勢をもつとともに、過去には事例がありましたので、職員には経験者が4割程います	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応(連絡方法、意識レベル、状態観察等)手順書に添って行うことができるように研修や会議での話し合いに取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練や防災の研修の中で避難方法の周知や確認を行っています。又、施設を避難場所に想定した地域の方との消防訓練も予定しています。	年2回の法定訓練をおこなっています。また有事における協力関係が自治会と築かれ、一時避難場所となるに至っています。また取組むにあたり、地域住民を受け入れるにはマンパワーと備蓄が心配など、率直な意見交換を自治会長とおこなっています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時に職員が周りに聞こえる声で、そのご入居者様の事を話したり、個人的な名前を伏せずに、フロア内で職員同士が話しをしないように、配慮しています。	職員も苗字が同じ場合は下の名前で呼んでいて、利用者も同じです。また利用者は本人のリクエストで対応している例もあり、基本的には意向に沿っています。接遇研修も年1回位置づけるほか、気になることがあれば随時実施しています	呼称については、「本人も希望するし、家族の了解もとったよ」といった呼びかけを職員におこない、職員が勘違いしないよう確認していくことを期待します
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様の表情や日頃の生活の様子から、思いをくみ取り、ご本人で意思決定ができる所はお願いしたり、手助けしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースにならないように考慮し、ご入居者様の行動パターンや気持ちを理解して支援していくように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に起床時の整容や男性のご入居者様でしたら髭剃り、又一番は洋服の汚れ、爪の伸び具合等細かく状態把握し、支援していくように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやかたづけ(お皿を重ねたり、下膳)を職員と一緒にしないながら、又食事前にメニューの説明をして、楽しさを感じていただけますように工夫しています。	皿拭きといった家事作業に意気揚々と取り組む利用者の姿があります。焼き立てパンなどのリクエストに応じるほか、「食べたい」ものが提供できないときは銀紙などで模造品づくりをやることもあり、食について熱心に取り組んでいます	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量、栄養状態を日常的に管理して健康状態を見ています。又食事中は嚥下状態や動作を観察する事で事故の内容に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の方から助言を頂いたり、施設側からの要望をお伝えしています。ご入居者様は自ら口腔ケアをされる方が少ない為食後の声掛けを工夫しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様一人一人の排泄のパターンを把握して、間に合わない事のないように、早めに声掛けをしたり、排泄動作を羞恥心に配慮しながらお手伝いしています。	日中はトイレで便座に座ることを旨とし、夜間は安眠を優先してパットを使用しています。パットは予め大きさや種類を絞っていますが、状況に応じてユニット会議で話し合っています。そのなかでは、家族の経済的負担も十分考慮しています	作業療法士の来所機会がありますので、(現在特設課題はないものの先行きを考え)排泄動作の場面についても指導を受けることを期待します
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬の調整だけでなく、水分摂取量を増やしたり、日中の活動を増やす中でご入居者様のデータ把握しながら改善策を検討しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者様のご要望をお聞きしながら、入浴剤を取り入れたり、時間帯をご要望に合わせて、快適な入浴を楽しんでいただけるように配慮しています。	現在シャワー浴となっている利用者が7名いますが、総じて週2回を目安として、また入浴剤はゆずの香りを使い楽しんでいます。湯は一人ひとり入れ替えているほか「ソリューションを使いましょう」の掲示もあって、衛生が担保されていることを視認しました	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様それぞれ入所時間や眠りの深さは違いますので、ご入居者様のライフバランスを考慮し又良眠できますように照明等配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の服薬内容や効果について理解しながら、往診時主治医と相談し、変更見直しを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中で得意な事はそのご入居者様に任せる事でご本人もご自身の役割を少しずつ理解していただけるようになってきました。楽しみごとは一つではないと思っておりますのでいろいろ提供しながら、その方が好まれる事を把握していくように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩だけでなく、ご家族にもお聞きしながら、季節を感じていただけるように桜や紅葉等地域の風光明媚な場所にお連れする機会をできるだけつくれるように配慮しています。	寒さ、暑さによる難儀さがある時期は廊下歩行に置き換えています。下筋力を鍛える体操を毎日励行しています。10時の体操後散歩となる為、丁度よいストレッチングになって散歩に向かえ、季節を感じる事ができています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルになりかねない事もあり、お金の所持は行っていませんが、時にはあらかじめ職員が用意したお金で好きな物を購入できる体制を工夫しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	封筒と便箋をお渡ししてご家族へのお手紙を書いていただいたり、一緒にはがきを投函したり、ご家族にお願いして電話をかけて頂くなどの工夫をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの共有スペースは季節を感じていただけるようにご入居様と協力しながら作品を飾ったり、清潔感を大切に快適にお過ごしいただけるように努めています。	玄関には階下の小規模多機能事業所の利用者との協同作品が掲げられています。リビングにも程よく作品掲示が飾られ、決して生活のじゃましておらず、共用空間全体が整然としていて清潔感が伝わります	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居様に合わせて心地よくコミュニケーションがとれるようにテーブルの配置を変えたり、お一人での空間スペースを確保できるようにソファや椅子を置いたり工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にご入居様が慣れ親しんでいらした物やお部屋に置いていたものをお聞きして、居室にも同じような環境でお過ごし頂けるように配慮しています。	クローゼットが予め備わっていますが、大変広く、清潔感があります。衣類が多い為大き目のチェストを家族が運び入れてくださったとか、時間を気にすることから掛け時計があったり、孫が届けてくれたというキャラクター入りのタオルがある居室を視認しました	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の表示やお風呂の場所わかりやすく、ご入居様の目線の高さに表示して、ご入居様が迷わずにご使用できますように工夫しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200467		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松富塚(葵ユニット 2階)		
所在地	静岡県浜松市中央区富塚町628-1		
自己評価作成日	令和7年10月31日	評価結果市町村受理日	令和8年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200467-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2297200467-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和7年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループは施設周辺の特徴としては、樹齢千年にもなる桜並木が川沿いに広がり、少し高台に位置しています。近くには老舗のスーパーや理髪店、病院(消化器系内科、呼吸器系内科、整形外科、総合病院)があり、地域連携を重要視しています。昨年自然災害時の一時避難場所に指定され、自治会の方との協力のもと緊急事態に備えています。毎年5月の浜松祭りにはお子様方による屋台の出発点としまして、ご利用者様からお菓子のプレゼントをしたり、地元の方によるウクレレやフラダンス、三線等の演奏会を鑑賞しています。一人暮らしの高齢者が多い地区に位置していますので、地元の方から施設への入居へのご要望も増えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最近、管理者が交替しましたが、以前は此処に勤務経験もある階下の小規模多機能事業所の管理者だった職員であり、エアマネージャーや事務員も長く携わっていることから、安心感が滲む事業所です。各種書面が丁寧に作成される中、生活向上機能訓練加算の取得を通じて病院から作業療法士を招き、個別に具体的な指導が入っていることから、利用者本人がより良く暮らすための課題と対策も確かです。また新しい管理者は、関心、感動、感謝(3K)、整理、整頓、清掃、清潔、しつけ(5S)を推奨しており、職員にも徐々に変化が現れていて、職員間に「ありがとう」と交わす声が増え、利用者に関わる時間も増えてきています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3つの介護理念を毎日の朝礼時に唱和したり、介護骨子を読み合わせして細かく内容の理解を深めて、行動指針となるように努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の圏域会議や地域包括の方が主催する介護教室等に参加。又、地域で開催するお祭りにボランティアとして参加する中で交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月回覧板に挟んで配布して下さる通信の作成、運営推進会議に参加される自治会長、民生委員の方に毎月の活動や認知症の方への支援方法を伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではできるだけ、地域資源(薬局、自治会、病院、スーパー)の方々に活動内容を紹介したり、さまざまな提案や要望を施設運営に生かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の現状を特に運営推進会議を通じて報告しています。報告書の提出や必要に応じて訪問相談の機会をもうけています。又、地域で施設を検討している方の情報をいただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度の身体拘束、不適切ケアのチェックシートにより日々の行動を振り返りながら、職員一人一人理解に努めています。又、施錠に関しましては防犯上必要な部分ではありますが、ご入居者様の心理状態を理解した上で開錠もしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待関連法について定例研修を行ったり、職員自らの行動の振り返りや虐待につながりかねない言動を見直す機会を設けています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際にご入居者様の中で成年後見人をご利用されていますので、ご利用に到った経緯や実際にどんな事をサポートしているか学び、必要とされるご入居者様のご家族に紹介しています。日常生活支援事業も研修の中で理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は一つ一つの項目を丁寧に説明し、随所で疑問点を尋ねてご納得していただいた上でご契約いただいています。又、解約の相談を受けた時は提案できる事をお伝えしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度のアンケートを実施していますが、良い評価をいただいた内容はさらにのばしていけるように、ご指摘やご要望に関しては早めに職員と話し合い、改善しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が主になって話すよりもむしろ職員から意見を引き出すように努めています。特に会議の場ではできるだけ職員からの提案意見に耳を傾けるようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境をよくするために、職員と定期的に面談を重ねる中で、個々のライフスタイルや希望するワークバランスに沿えるように努めています。又、得意な分野を生かした活動の提供を通じて向上心が持てるように働きかけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のレベルを把握して、キャリアパスへの挑戦をすすめたり、本社や市が主催の研修への参加を提案しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域会議に参加する事で、同じような形態の施設の管理者と話ができる機会となっており、同じような問題点を抱えている事を改めて理解し、相互協力の礎となっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では、収集したご入居者様の情報をもとに、安心して、その人らしく生活していただく為に出来る限り寄り添い話をするように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事に対して施設が何が出来るのかを明確にご家族にお伝えする中で少しでも不安を感じている部分の解消の糸口になるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では環境の変化への適応を優先し、安全面や他のご入居者様との関わりへのサポートをしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭きや洗濯物干し等をお願いしたり、時にはお味噌汁等を職員とつくったりとこれまでの生活スタイルを維持していただけるように配慮しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの情報もいただきながら、ご入居者様の今までの生活を実現、継続できるように支援方法を話し合い決定しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の場所にお連れしたり、親しいご友人をご家族にも協力いただきながら、ご面会の機会をつくれるように努力しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ作業を共同で行っていただいたり、共通の会話をしながら、ご入居者様同士の関係性が築きれるように職員が配慮、会話の橋渡しをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を実際に終了された方の訃報のお知らせをお聞きして葬儀に参列させていただいたり、他の施設に移られた方の様子を担当者から聞かせていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からご入居者様のご要望を把握したり、意志疎通が困難な方でも動作やしぐさから好みを読み取る努力をしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご契約時にご家族にご入居者様の生活歴を記載していただき、その為の支援の方法を話し合っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	看護、医療の地域資源の方々と情報交換協力体制をとりながら、常にご入居者様の状態観察に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状を把握しながらサービス担当者会議にて支援方法の見直しや新たな提案を出し合い、ケアプランの作成を行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ヒヤリハットや食事、排泄の記録だけでなく、職員との会話の中でつかんだ情報、ご入居者様のにやりとした様子も交えて記録作成をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の施設の事例も参考にしながら、良い事は積極的に取り入れたりしながら、サービスの多様化や可能性を秘めた支援を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の地域資源を把握していく中で、施設にとってプラスに働くものを取り入れたり、協力要請をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居者様やご家族の希望を踏まえて往診時には日頃の健康状態を細かく報告し、異常が見られる時は早期に主治医に相談して状態悪化の予防に努めています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師による健康管理を行い、職員から日常の様子を確認しながら、処置や助言を受け、必要に応じて主治医への指示もいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できる限り早期退院につなげられるように、入院中の処置や状態をお聞きしながら早期に退院ができるように対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の中で終末期の状態になりました時は、ご家族の思いを確認しながら、看取り介護の方針を決め、最後までご入居者様が穏やかに苦痛なく過ごせるように支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応(連絡方法、意識レベル、状態観察等)手順書に添って行うことができるように研修や会議での話し合いに取り組んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練や防災の研修の中で避難方法の周知や確認を行っています。又、施設を避難場所に想定した地域の方との消防訓練も予定しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様の表情や日頃の生活の様子から、思いをくみ取り、ご本人で意思決定ができる所はお願いしたり、手助けしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースにならないように考慮し、ご入居者様の行動パターンや気持ちを理解して支援していくように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に起床時の整容や男性のご入居者様でしたら髭剃り、又一番は洋服の汚れ、爪の伸び具合等細かく状態把握し、支援していくように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けやかたづけ(お皿を重ねたり、下膳)を職員と一緒にしながら、又食事前にメニューの説明をして、楽しさを感じてもらえますように工夫しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量、栄養状態を日常的に管理して健康状態を見ています。又食事中は嚥下状態や動作を観察する事で事故の内容に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の方から助言を頂いたり、施設側からの要望をお伝えしています。ご入居者様は自ら口腔ケアをされる方が少ない為食後の声掛けを工夫しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者様一人一人の排泄のパターンを把握して、間に合わない事のないように、早めに声掛けをしたり、排泄動作を羞恥心に配慮しながらお手伝いしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お薬の調整だけでなく、水分摂取量を増やしたり、日中の活動を増やす中でご入居者様のデータ把握しながら改善策を検討しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご入居者様のご要望をお聞きしながら、入浴剤を取り入れたり、時間帯をご要望に合わせて、快適な入浴を楽しんでいただけるように配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様それぞれ入所時間や眠りの深さは違いますので、ご入居者様のライフバランスを考慮し又良眠できますように照明等配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の服薬内容や効果について理解しながら、往診時主治医と相談し、変更見直しを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中で得意な事はそのご入居者様に任せる事でご本人もご自身の役割を少しずつ理解していただけるようになってきました。楽しみごとは一つではないと思っておりますのでいろいろ提供しながら、その方が好まれる事を把握していくように努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩だけでなく、ご家族にもお聞きしながら、季節を感じていただけるように桜や紅葉等地域の風光明媚な場所にお連れする機会をできるだけつくれるように配慮しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルになりかねない事もあり、お金の所持は行っていませんが、時にはあらかじめ職員が用意したお金で好きな物を購入できる体制を工夫しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	封筒と便箋をお渡ししてご家族へのお手紙を書いていただいたり、一緒にはがきを投函したり、ご家族にお願いして電話をかけて頂くなどの工夫をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの共有スペースは季節を感じていただけるようにご入居者と協力しながら作品を飾ったり、清潔感を大切に快適にお過ごしいただけるように努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居様に合わせて心地よくコミュニケーションがとれるようにテーブルの配置を変えたり、お一人での空間スペースを確保できるようにソファや椅子を置いたり工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様にご入居様が慣れ親しんでいらした物やお部屋に置いていたものをお聞きして、居室にも同じような環境でお過ごし頂けるように配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所の表示やお風呂の場所わかりやすく、ご入居者の目線の高さに表示して、ご入居者が迷わずにご使用できますように工夫しています。		